

でもね

せんせい

2022年1月号

内藤アカデミー
学童保育教室

国語力をつけるなら
音読は表現力の要です 塩入樹実

2年生の絵日記帳
より「アカデミー
ウィンターフェス」



<2年>

新年あけましておめでとうございます。年が明けるとすぐに新型コロナウイルスのオミクロン株が急激に蔓延しており、生徒の皆さんはもちろん、保護者の皆さまにおかれましても感染されることのないように細心のご留意をお願いしたいと思います。

文章を声に出して読む音読を行うことで、黙読では理解できなかった文章が理解しやすくなります。音読をすることで脳の前頭前野が活性化されます。これにより、記憶力や判断力を高める効果があると言われています。さらには、前頭前野が活性化されることでセロトニンも分泌されます。そのため、興奮をおさえ、落ち着いて勉強する効果も得られます。音読は脳の働きの面から見ても、学力向上に非常に効果的な勉強法だと私は思っています。



<2年>

1: 脳の活性化により記憶力が向上する

脳内の前頭前野が活性化されることで、記憶力と理解力が向上すると言われています。私の国語の時間でやや難解な文法分野の学習の時間では、生徒たちにホワイトボードに書いた内容を音読させています。すると納得できた、理解できたという生徒が一人二人と出てきます。

2: 語彙力・読解力の向上

音読することで、語彙力や読解力が向上します。声に出して読むには、漢字の読み方や単語の意味、文の流れや文章の切れ目を考えながら読むことが必要になります。その結果必ず文章構造や論理展開を考慮ようになってきます。また、音読をすることは、文章を目で追い、声に出し、自分の耳で聞くということになります。視覚と聴覚の両方が刺激され、文章理解も進みます。この積み重ねで、確かな読解力が出来上がっています。

3: 黙読が速くなる

音読は、最初につつかえながらも、繰り返し練習することですらすら読めるようになります。それは、日本語のリズムに慣れ、語彙や文章構造、論理展開を理解する力が伸びるからです。そうして身につけた力は、黙読にも効果を発揮します。内容をしっかり押さえながらも読むスピードを速くすることができるようになります。

4: 気持ちが落ち着きます

音読で脳の前頭前野が刺激されるとセロトニンが分泌されます。セロトニンは、興奮や攻撃を助長するアドレナリンを抑え、



<2年>



<2年>



<2年>

気持ちを落ち着かせる作用があります。音読により、ストレスを軽減して、リラックスした状態を整えることができます。

5: コミュニケーション力の向上

音読により活性化される脳の前頭前野は、コミュニケーション能力も司っています。また、音読をすることで、発声に慣れて滑舌が良くなったり、声を出すことへの苦手意識も軽減します。また語彙力が身に付き自分の感情を相手に伝えやすくなります。普段のコミュニケーション能力向上にも効果が発揮されます。

6: 自制心が育つ

脳の前頭前野は、感情をコントロールする役割も持っています。そのため、音読をすることは、気持ちを落ち着かせ、感情を制御することにも役立ちます。その積み重ねで、自制心が育ち感情に流されなくなっていくます。

さて読み終わったらすぐにフィードバックすることが大切です。前向きな感想を伝えましょう。「上手に読めたね」しか思いつかない方も褒め方のバリエーションが子供の語彙力強化につながります。ですから

できるだけ変化をつけた方がいいと思います。一例として「優しい声で読めたね」「丁寧に読めたね」などです。

音読の宿題は、忙しい中音読を聞いてあげるのは大変だと思います。でも効果を最大限にするためには保護者の皆さまの補助は欠かせません。お子様の将来を考えてサポートしてあげてください。

頭の柔らかい小学校低学年や中学年の間はお勧めの書物としては教科書が一番最適です。学年相応の語彙力が身に付くようになっていきます。それでももう少し何か・・・という方は古典や近現代の名文をお勧めします。子供向けになっている古典落語の「寿限無」や太宰治の「走れメロス」などは一文が短く日本語のリズムが大変整っていますのでお勧めします。

国語の読解力は将来あらゆる勉強の要になってきます。内藤アカデミーの英語の指導でも英文や英単語の音読 (Read aloud.) は必須課題になっています。繰り返しになりますが頭の柔らかいこの時期に繰り返しトレーニングを積んで表現力の豊かな生徒に成長していただけたらと思います。



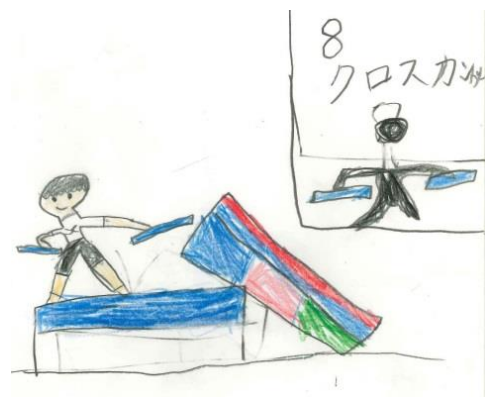
<2年>



<2年>



<2年>



<2年>



<2年>



<2年>



<2年>

